

平成二十六年八月の作品（八月八日（金））

（於 文京シビックセンター 5階D会議室）

日盛りや橋に客待つ人力車 （一江）

素麺や母の好みし胡桃くるみだれ （由美）

かち氷額に夏の甲子園 （正佳）

バリトンの声がかき消すはたた神 （隆治）

ケチャの音に常夏の島暮れゆけり （正雄）

重い口開けて語れる終戦日 （貴美）

突きぬける空より風の青田波 （奉男）

片蔭を行く山伏や羽黒山 （太郎）

父母の墓をしばし離れぬ秋の蝶 （前歩）

夜明けまで堪こらへて蝉せみの関とぎの声 （孝昭）

梅の実の忘れたころに落ちにけり （平六）